

木徳神糧株式会社

2010年12月期第2四半期累計期間
(2010年1月～6月)決算説明資料

2010年8月27日(金)

内容

- 2010年12月期第2四半期累計期間
(2010年1月～6月)の業績報告並びに
通期計画の見通し及び進捗状況

- 通期計画達成に向けての課題と施策

**2010年12月期第2四半期累計期間
(2010年1月～6月)の業績報告並びに
通期計画の見通し及び進捗状況**

目次

1. 第2四半期累計期間連結損益計算書
2. 第2四半期累計期間連結セグメント別損益
3. 第2四半期累計期間連結貸借対照表
4. 第2四半期累計期間連結キャッシュフロー
5. 連結・単体通期計画の見通し及び進捗状況

1. 第2四半期累計期間連結損益計算書

単位:百万円

項目	10年度第2四半期累計期間 (2010年1月～6月)実績	09年度第2四半期累計期間 (2009年1月～6月)実績	増減
売上高	52,562	53,052	△490 (△0.9%)
営業利益	499	534	△35 (△6.6%)
経常利益	439	522	△83 (△15.9%)
当期純利益	235	307	△72 (△23.5%)

前年同期比の主要増減要因

売上高: 米穀事業△296百万円(精米販売単価の下落)
鶏卵事業△274百万円(販売数量の減少)
飼料事業+73百万円(販売数量の増加)

営業利益: 鶏卵事業△31百万円、食品事業△29百万円(競争激化や製造コストの上昇)
米穀事業+15百万円(製販コストの節減)
飼料事業+10百万円(利益率のアップ)

経常利益: 営業外収益△68百万円(円高の影響△41百万円)
営業外費用△20百万円(支払利息の減少△16百万円)

注:数値は百万円未満切り捨て。

2. 第2四半期累計期間連結セグメント別損益

単位: 百万円

項目	10年度第2四半期累計期間 (2010年1月～6月)実績		09年度第2四半期累計期間 (2009年1月～6月)実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
連結合計	52,562	499	53,052	534	△490	△35
米穀事業	43,363	761	43,659	746	△296	+15
食品事業	4,209	11	4,203	40	+6	△29
鶏卵事業	2,952	50	3,226	81	△274	△31
飼料事業	2,036	125	1,963	115	+73	+10
消去又は全社	-	△449	-	△450	-	+1

注: 数値は百万円未満切捨て。

3. 第2四半期累計期間連結貸借対照表

単位:百万円

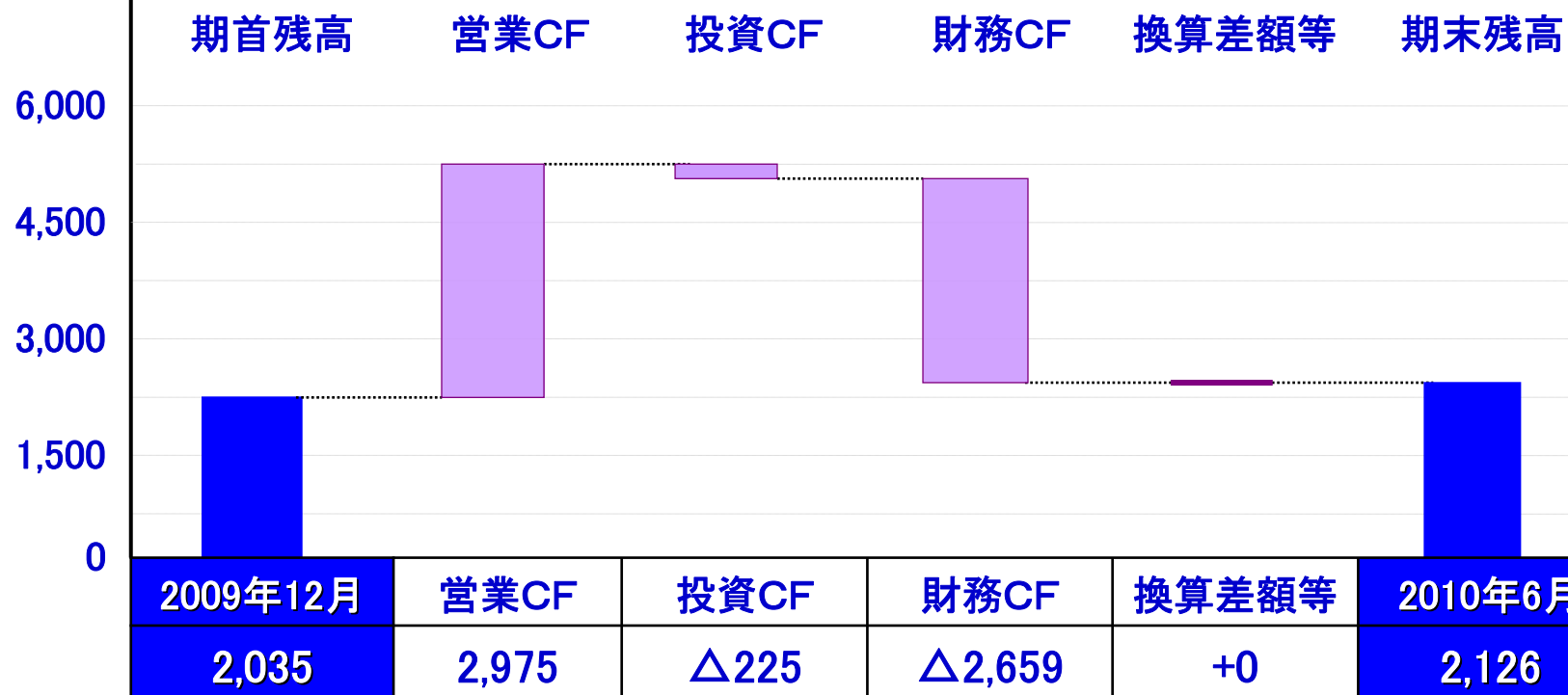
項目	10年度第2四半期 累計期間(2010年 6月末)実績	09年度第2四半期 累計期間(2009年 6月末)実績	増 減	増減要因
流動資産	14,782	16,271	△1,489	現金預金△682 前渡金(*)△564 売掛金△202
固定資産	8,467	8,686	△219	減価償却費△536
資産合計	23,250	24,957	△1,707	
流動負債	15,578	16,900	△1,322	前受金(*)△1,087 買掛金△504 短期借入金等+160 未払金+127
固定負債	2,237	3,050	△813	社債△420 長期借入金△381
負債合計	17,816	19,950	△2,134	
純資産合計	5,433	5,006	+427	
負債純資産合計	23,250	24,957	△1,707	

(*)前渡金、前受金の主な増加要因は、ミニマム・アクセス米に係る取引によるものです。

注: 数値は百万円未満切捨て。

4. 第2四半期累計期間連結キャッシュフロー

単位:百万円



営業CF:税金等調整前四半期純利益 422 減価償却費 259
 たな卸資産減少 3,178 売上債権減少 1,474 仕入債務減少△2,492

投資CF:設備投資額増加 △218

財務CF:短期借入金減少 △1,980 長期借入金減少 △405 社債減少 △236

注:数値は百万円未満切捨て。

5. 連結・単体通期計画の見通し及び進捗状況

単位：百万円

項目		09年度実績	10年度通期計画の見通し及び進捗状況		
			第2四半期累計期間 (2010年1月～6月)実績	通期計画	進捗率
売上高	連結	104,429	52,562	107,320	49.0%
	単体	86,713	44,215	88,900	49.7%
営業利益	連結	1,042	499	1,040	48.0%
	単体	812	431	800	53.9%
経常利益	連結	941	439	800	54.9%
	単体	732	398	640	62.2%
当期純利益	連結	578	235	450	52.2%
	単体	416	224	370	60.5%

注：数値は百万円未満切捨て。

通期計画達成に向けての課題と施策

1-1. 当社を取り巻く経営環境（食品業界全体）

食品の安全・安心はもとより、
消費者は価格を重視しているが、
新たな価値も求めている

- ・個人消費の低迷
- ・消費者の低価格志向
- ・業界再編の加速

国内外の
穀物相場の
変動

食品関連の
規制強化

人口の減少、
少子高齢化

雇用・所得への
不安

1-2. 主力の米穀事業を取り巻く経営環境

人口減少に伴う
需要の減少傾向

小売・外食における
価格競争の激化

雇用・所得の
先行きが不透明

外食の減少、中食・内食への回帰、
食品に対する消費者の低価格志向が根強い

小麦粉との価格差により、粉食回帰(パン、麺等)、
コメ消費量の減少に歯止めが掛からない状況

国内市場

- ・企業間の競争激化
- ・卸会社淘汰の加速

海外市場

- ・成長市場の開拓

生産過剰・供給過剰が解消されず、
販売価格下落圧力の中で卸会社のコスト負担増

コメ流通に関する
トレサ法の施行

民間在庫の過剰で
仕入抑制の傾向

農政変革による需給
への影響が不透明

2. 通期計画達成に向けての課題と施策

通期計画達成に向けての課題

1. 国内における確固たる地位の確保
2. 海外におけるコメビジネスの展開
3. 新しい用途、付加価値商品の開発
4. 特徴ある飼料事業の成長
5. 食品事業・鶏卵事業の収益改善

2-1. 通期計画達成に向けての課題と施策

国内における確固たる地位の確保

- ◆ 主要取引先におけるトップシェアの堅持
お取引先様が期待するニーズにしっかり応える
提案型営業を積極的に展開
- ◆ 新規取引先開拓の強化
質・量ともに優位性を発揮する「攻めの営業」
- ◆ 中京・東海地区への営業強化
8月より100%出資子会社(木徳東海)が営業開始
- ◆ 全国同水準の生産管理、品質管理の推進
ISO認証取得やグループ内ノウハウの共有を促進

2-2. 通期計画達成に向けての課題と施策

海外におけるコメビジネスの展開

- ◆ 三国間貿易の拡大
 - ジャポニカ米の製造・販売体制の強化
 - 既存工場のリニューアル(ジャポニカ米専用工場へ)
- ◆ 成長市場進出の模索
 - 中国マーケットの成長に注目
- ◆ 安定的なMA米の取扱い
 - アメリカ、タイの現地有力シッパーとの関係強化、
取扱規模の維持

2-3. 通期計画達成に向けての課題と施策

新しい用途、付加価値商品の開発

- ◆米粉需要の創造（国内自給率向上に貢献）
 - ・平成22年産新規需要米契約栽培1,200トンに拡大
 - ・大手食品メーカーへの米粉販売数量の拡大
- ◆コメの新たな価値創造
 - ・組織体制の強化（企画開発事業部を新設）
 - ・商品開発の加速（ライスミルクなどを商品化）
- ◆低たんぱく米市場の成長
 - ・消費者ニーズに合わせた商品開発
（低たんぱくの丸餅、米麴みそ、和菓子シリーズは5月より発売開始）
 - ・研究開発における他社との連携強化

2-4. 通期計画達成に向けての課題と施策

特徴ある飼料事業の成長

◆販売規模の拡大

国産飼料原料の価値創造と優位性の発揮により、
販売数量の更なる拡大

◆輸入飼料の開発強化

グループの海外法人(ベトナム、タイ)との連携、
国内ニーズにマッチする輸入飼料の取扱強化

◆付加価値商品の開発

コメ糠を飼料原料から食品原料へと用途拡大

2-5. 通期計画達成に向けての課題と施策

食品・鶏卵事業の収益改善

◆ 食品事業の収益改善

鶏肉加工販売分野

- ・提案型営業の実践で取引基盤(量販店・小売店向け)を強化
- ・生協等向けに付加価値商品(JAS有機認定オーガニックチキン、コメ等を飼料とする「こめ鶏」)の販売強化

惣菜加工販売分野

- ・製造コストダウンの推進、事務効率の向上
- ・既存取引先へのフォロー体制の強化、新規取引の開拓

◆ 鶏卵事業の収益改善

- ・製販両面におけるリストラクチャリングの推進
- ・付加価値商品(特殊卵)の販売強化

2-6. 通期計画達成に向けての課題と施策

通期計画の達成

打ち出した施策の推進

注意事項

本資料のうち、業績計画等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。